

序

奈良文化財研究所と大韓民国国立文化財研究所との共同研究がはじまって21年が過ぎました。この間、多方面にわたる学術成果を共有する研究交流にとどまらず、実際の発掘現場に互いの研究員を参加させ、発掘調査の経験交流も深めてきました。

こうした交流は、日韓双方の研究状況や研究手法を認識しながら、互いに研鑽しうる場となっており、今後の両国の相互理解と研究の進展に大きな意義をもつものと期待されます。また、これらの交流を通して特に若手研究者が大きな刺激を受け合っていることも重要です。

ところで、2016年からは「日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究」と題したテーマで交流を進めていますが、これに関連する調査研究成果を日韓研究者の論文集としてまとめることにしました。これまでの共同研究の成果は、2008年に『日韓文化財論集Ⅰ』、2011年に『日韓文化財論集Ⅱ』、2016年に『日韓文化財論集Ⅲ』として刊行してきました。今回の論集は、それに続くもので、両研究所あわせて12名の研究者から、考古、歴史、庭園景観などの分野の論考が集まりました。

両研究所の共同研究は、都城を中心とした研究テーマを核に着実に進展する一方、各分野それぞれに独自のテーマをもった多様な研究も進んでいます。本書をご覧いただければ、その傾向をご理解いただけるかと思えます。

両研究所の共同研究は、本書に収録した分野にとどまらず、遺跡の整備・活用、保存科学など多岐にわたる分野で進行しています。今後ともこれらの多角的な共同研究の成果が、こうした論集の形で結実することを期待するとともに、両国の相互理解と文化財保存への取り組みが一層深化することを祈念いたします。

2020年12月

独立行政法人国立文化財機構
奈良文化財研究所長

松村 恵司

발 간 사

국립문화재연구소와 나라문화재연구소가 한일 고대문화에 관한 주제로 공동연구를 추진한 지 올해로 21년째가 되었습니다. 총 4 차에 걸친 한일공동연구에서는 도성제 비교 연구를 비롯하여 도성, 사원, 분묘 등에 관한 유구와 유물 연구, 유적 정비·복원 기법 등 다양한 주제의 학술연구가 진행되었으며, 양 기관의 전문가들은 상호 교류를 통하여 심도 깊은 학술적 성과를 도출하고 이를 공유하여 양국의 학문적 발전에 기여하였습니다.

특히 2007년부터 이러한 연구 성과를 집약한 『한일문화재논집』을 발간함으로써 양국의 다양한 학문적 시각과 연구의 결과물을 확인하는 기회가 되었습니다.

이번 제 4 차 한일공동연구의 결실인 『한일문화재논집IV』는 2016년부터 2020년까지 진행된 「한일 고대문화의 형성과 발전 과정에 관한 공동연구」의 성과를 수록하였습니다. 양국의 고분 축조기법, 출토 토기와 기와, 한일 전통 조경 공간, 도성 및 사찰문화, 금속 및 석공기술, 목간을 주제로 한 다양한 비교연구는 양국에서 이루어진 체계적인 현지조사를 바탕으로 유의미한 연구 성과를 보여주었다고 생각합니다. 이 논집이 다양한 분야에서 진취적이며 참신한 연구로 발전될 수 있기를 기대합니다.

앞으로도 양 연구소가 협력적인 관계를 더욱 공고히 하여, 다양한 분야에서 한일 고대문화에 관한 공동연구를 지속할 수 있기를 희망하며, 바쁜 업무에도 불구하고 5년간 무사히 공동연구를 수행하고 훌륭하게 마무리 해주신 양 기관의 연구자들에게 감사의 인사를 전합니다.

2020년 12월

국립문화재연구소장
지 병 목

発刊の辞

国立文化財研究所と奈良文化財研究所が日韓古代文化に関するテーマで共同研究を開始してから今年で21年目となりました。4回にわたる日韓共同研究では、都城制の比較研究をはじめとして、都城、寺院、墳墓などに関する遺構・遺物の研究、遺跡整備・復元手法など、多様なテーマで学術研究がおこなわれ、両機関の研究者たちは、相互交流を通じて深い学術的成果を導き出すとともに、これを共有し、両国の学術の発展に貢献してきました。

特に2007年からは、このような研究成果を集約した『日韓文化財論集』を発刊することにより、両国の多様な学術的視点と研究成果を確認する機会となりました。

今回の第4次日韓共同研究の結実である『日韓文化財論集Ⅳ』は、2016年から2020年までおこなわれた「日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究」の成果を収録しています。両国の古墳築造技術、出土土器と瓦、伝統造景空間、都城制と寺院文化、金属および石工技術、木簡をテーマにした多様な比較研究は、両国でおこなわれた体系的な現地調査をもとに、意義ある研究成果を示すことができたと考えます。この論集が、様々な分野において、進歩的で斬新な研究へ発展することを期待します。

今後も両研究所が協力関係を一層強固なものとし、様々な分野で日韓古代文化に関する共同研究が継続することを願っております。多忙な業務にもかかわらず、5年間無事に共同研究をおこない、その成果を見事に結実させた両機関の研究者に感謝の意を捧げます。

2020年12月

国立文化財研究所長

지 병 목